

移動式プラネタリウムを楽しむ子どもら
＝豊橋市障害者福祉会館さくらピアで



仰天`宇宙旅行、に歓声

豊橋 障害ある子らにプラネタリウム

障害のある子どもらにプラネタリウムを楽しんでもらうイベントが、二十七日、豊橋市障害者福祉会館さくらピアであった。親子ら約四十人が、投影された星空を観賞した。

一般のプラネタリウムはバリアフリー化が進んでいなかったり、子どもが騒いで周囲に迷惑をかけることを気にしたりする保護者が多いことから、一昨年からさくらピアが実施している。

今年、山梨県の団体「星

つむぎの村」が所有する直径七メートルの移動式プラネタリウムドームが登場。車いすのまま入ることができるドーム内に、天の川や夏の星座、遠くの惑星などの映像が映し出された。

子どもたちは寝転がったり、保護者に寄り掛かったり、会話をしたり。「宇宙旅行みたいで楽しい」「木星が降ってきちゃっ」と歓声も上がった。手話通訳士の母と一緒に参加した豊橋市栄小六年の前川唯一君（こ

た」と笑顔で話した。

(昆野夏子)

2019年8月30日(金)

中日新聞